

主題 国語Ⅰ・Ⅱにおける表現の指導

司会者 大西 道雄（福岡教育大学）

提案者 石田 民生（広島県立安西高校）

片桐 啓恵（長崎県立島原商業高校）

山田 夏樹（広島市立基町高校）

「国語Ⅱ」における表現指導の工夫

石 田 民 生

はじめに

昨年の二学期に、少し私がびっくりしたことがございまして、ここにありますように、意見文がある程度指導したあと、「先生、書くのはそんなにむずかしいものじゃないねえ」とか、「きちんとした小論文書いてみたいよ」とか「題があった方が書きやすいんで、

何か題を出してや」というような、そういうことばが、割と多くの生徒から出されました。「あらっ」と私は思いました。以前は、夏休みの読書感想文を、このクラスはあまり出しながらなかったわけです。校内の締切りになかなか間に合わないで、「まだ書けないか早く出せよ」というようなことを言った。そういうクラスでしたので、「どうしたのか。ひどく変わったなあ」という感じがいたしま

した。それがなぜかということをもう少し追求してみたかったのですが、そのあとは、もう試験がありましたり、いろんなことがあってそのままになっていました。この六月、私に、この「国語Ⅱにおける表現の指導」の提案をしてみないかというお話がありましたので「そういえば、昨年二学期に実践したことがあったからあれをもう少し整理してみよう」と思い、ご提案申しあげる次第です。

スピーチを種にして

どういうふうにしたかということをごくごく簡単に申しますと、「古今和歌集」の序文に、「やまとうたは人の心を種としてよろづの言の葉とぞなりにける」とありますのをヒントにいたしまして、一つの種として話題を見つけさせ、生徒にスピーチをさせまして、その話した内容をふくらませ、意見文という葉に導いていったのです。もちろん花や実までにはなりません、芽ぐらいにはなったんじゃないかと思います。

もう一つは、「起承転結」ということを私はいつも考えますが、意見文をもたせるということは、生徒に考えを飛躍させることになるんじゃないか、いつもいつもやっているような経験を書いたり感想を書いたりというのを広く構成から考えると、起承転結の「起」や「承」にあたると思えば、少しみかたをかえて、こう意見を持ちますということとは「転」といいますか、思考としては転機になるものと思われまふ。つまり次元が高くなるのではないのでしょうか。それで二年生の二学期ですから、そういう転機にちょうどあたったのではないかなあと考えると、いい時機だった気がします。

一言で申しますと、生徒自身が二カ月前に話したことがらを内容にして、それを発展させて意見文としてまとめさせた、ということでごいしました。

指導の実際

このクラスは45名（男21、女24）でございますが、「書くこと」について調査いたしました時、嫌いが27名、どちらとも言えないが15名、好きは3名でした。きらいな理由は「書くことがない」とか「書くことがわからない」とか「書くのはめんどろ」などです。「意見文を書いた経験は」という質問に「ある」は10名（男4、女6）、「ない」または「覚えていない」が35名と圧倒的に多いのです。

「意見文を書く」という単元の目標として①身近なことがらの中に問題を見つけさせ、②自己の考えをまとめ、③多くの資料を参考にするなどで視野を広げさせ、④三段階構成によって文章を組み立てさせる、と四項目立てました。教科書の文章は（資料Ⅰ）一通り読んで、意見文は自分の切実な思いや主張を人々に訴えるために、同意を得るために書くのである、というそういうふうなことを押さえた、という程度でございます。

指導の過程というのも、少し考えを変えまして、徹底した個人指導——相当数の生徒が遊ぶこともありますけど、もう、徹底した個人指導でやってみました。図書館に入ったり、教室でやらせたり、ということ、やったわけです。その頃には、私と生徒との仲というの、わりと良くいっておりまして、すべて打ち開けられるよう

な関係でしたから、個人指導をしてもさしつかえないだろう、と、考えました。それから、テーマの設定とか、資料の検索ということについてですが、これもさっき申しましたように、生徒たちの最近の傾向として、自分で考えず、すべて借り物ですませようという意識と行動が見られます。これは昨日もいろいろのお話が出ましたように、友達のを借りてそれを書き写すとかいうようなことがあります。それから読書感想文についても、「解説」の方を写したまま提出して平気である者がございますので、意見文の指導をする場合も、何を種にするかということを考えましたときに、やはり、自分が考えたものとか自分が使ったものを種にしたらいんじゃないかと、そういうことを考えたわけです。

スピーチとの関連もそうですが、スピーチというのは、スピーチの指導というので一つの体系をもった指導があるし、またそうしなければいけなかったわけですが、九月頃の授業の変化ということを考えまして、自分自身を紹介してみたらどうかとか、友だちどうしお互いに理解を深め合ったらどうかということで、多少指導はいたしましたが、順番に人の前に立って話をしてみなさいという、そういうふうなことで、スピーチをやらせたことがございます。その内容については、(資料2)にございますが、左側に挙げられている項目が、スピーチの内容でございます。スピーチの際に、説明とというのがあります。紹介というのがありますし、それからどうしてもみんなに訴えたい「訴え」というものもございます。そういうものをすべて含めて「どうしても自分として話したいことを話せ」と、それから「最初、私はどういことをいいます」といことを言い

なさい。そして本論をいいなさい「最後にだから自分はどうか、どんなことを訴えたかった」と、こんな順にいいなさい、と、これもやはり三段にまとめて話をするように指示しました。

で、トップのAくんはさっそく、自分の先輩にきいた話であるとか、先生というのは目頃はやさしいが、ぐっとにらまれるとかいとか、そんなことをみんなを笑わせ笑わせ話をしましたので、非常に、それがよかったのか、あと、生徒のムードがぐくだけで本音が出たようでございます。

(資料2)を概観しますと、ほとんど学校生活のこと、それから自分の個人の体験というものがございます。で、十一月に「意見文を書こう」という単元を実施する時もう一度、自分で話した内容について思いおこさせ、中には「もう忘れた」というのがおりますから、「こういうことをいったじゃないか」ということを思い出させて、それを一つの種にしまして、意見文というのを作らせようとしたわけでございます。スピーチの話題を利用することによって事前に、生徒の考えそうな意見文の見当がつくわけですし、それから、そのためにはどんなものを利用したらよいか、引用とかあるいは紹介とかそういう場合の視野を広げさせる方法というのが、大体射程内に入る、個人個人にどういう指導をすればよいのか、ということがほぼ見当がつきます。それから、他教科の先生の知恵をどこで借りすればよいのかの見当もつきます。

あと、面接をいたしまして、意見文に変えることの必要性とか、発展のすじ道の指導をいたしました。「経験というのは個人の話題とか個人の経験にすぎない。しかし、それをほかの人たちとの関係

で考えたり、理想はこうだという意見をもったら、もてるはずだ」とそれから、バレー部ならバレー部でもいろんな意見の出し方があるが、人間関係でいうのか、あるいは自分自身の耐えがたいところを耐えたそういう心を述べる、あるいはスポーツのマナーというところからのべる、マナーを論じるとか、そういった意見の出し方があるんだ、ということの指示をいたしました。それから、生徒はなかなか焦うつしほり方がわからない。これはやはり、時間をかけて一斉指導すればよかったと思いますが、全体には、というよりも共通して、焦点をしぼること、それから、借物でない自分の意見をもつことのだじさを説明いたしました。

前年まで私が図書館におりました関係で大体図書館の本は何がどこにあるとかいうことがわかっておりましたので、資料には目を通しておきました。とくに「白書」を相当入れましたから、「青少年白書」だとか「国民生活白書」、あるいは「環境白書」とかでですね、そういう白書類にいろいろ統計が出ているわけです。それから、国勢図絵、年鑑、総記類、辞典類、そういうものに目を通しておきました。そして、それぞれについて、場合によっては、例えば講談社新書を見なさい、とか、岩波のジュニア新書を見なさい、とか、そういうふうに指示をしまして——あと考えると、生徒自身に資料の検索をさせればよかったと思います——それぞれヒントを与えて、読ませたり、図表を見させたり、統計を見させたりしたわけです。

それから、構想については、四段階構想というのもございますが、一番書きやすいのは、やはり、問題を提起する序論と、本論と結論という三段階にしなさい、というふうに指示をいたしました。

で、どういうふうに広がっていったかということも、(資料2)を見ていただきますとおわかりになるでしょう。一番の生徒で私のことを言ったのは、やはり教師論じゃないか、ということですね、教師について、あるいは理想的な教師について書いたらどうか、と指示を与えたのです。「朝日新聞」だったかの「声」らん、これに割と意見が多く出されていきましたので、切り抜きを見せて教師と生徒との関係について、考えさせました。2番I君の「十二キロやせた経験」というのは、健康の問題について、そして国民の現在の状態というの、どんな様子か、それは「厚生白書」の「病氣」の統計と考察を見るように、という指示を与えました。クラブを紹介しました者が六名はどいましたけれど、クラブを考える場合、いろいろな切り込み方がある。リーダーの資格、あるいは先輩と後輩の関係、さっき申しましたように、自分の体験の分析、とか、そういうふうに焦点をしぼっては、意見をまとめさせたわけです。

具体的な作品として(資料3)と(資料4)がございます。(資料2)の一覧表で言いますと38番のMという子ですが、「私と親」という題で親とうまくいかないんだということを訴えた生徒がおります。しかし、親とうまくいかないという個人的経験では、本当の意見にはならない。理想的な親と子の関係とはどうであるか、それについては「青少年白書」を見てごらん、といって、そこで、家庭内暴力のいろんな分析がございましたので、それを見させて、それで本当の、今、Mさんが考える親と子の理想的な関係を考えさせたわけです。それから(資料4)にありますのは、これは男子の生徒、15番の生徒ですが、芸術線に乗った、という経験から——この生徒

は、登山部の生徒で、国鉄に関心のある生徒なのですが——「鉄道輸送の諸問題」というのを書きました。これは、ほとんど段落なしで、書いてしまいました。この生徒には「観光白書」をみせて、国鉄がどんな状態であつて、民営鉄道がどんな状態であるか、比較して考えさせました。どうも、はじめは結論がはっきりしていると思いましたが、何か資料に押されて、結論が漠然とした感じになりました。そういうふうな、種と葉の關係と申しますか、自分の作品を種として、それをふくらませて、意見文に仕上げたと、そういうことです。

反省点

いろんな反省を持つわけですが、一つは、読みの場合に、α読みとかβ読みとかいいまして、もうすでに知っていることを読む読み方と、全く知らないことを読む読み方というのが、外山滋比古氏ですか、そんな提案がありますが、書く場合にも、自分の書いたものを参考にして、それをえぞりながら書いてみるとか、自分の作品から発展させて書いてみる、とか、そういうふうな書き方をすれば、案外最初に申しましたように、「書くことはそうむずかしいものではないんだなあ」とい実感を生徒に持たせることができるのではないかと思われます。もう一つは内容に関してですが、身近な問題から出発しますと、どうしても、大きい問題というものが見失われるので、別途の方法が必要です。例えば人類の将来の問題——核の問題とか、戦争の問題、その他、もっと、高校生として目をつけなければいけない問題というのが多くあるわけですが、それについては

何かもっと屈折させた書き方——視聴覚教材を見せたり、文学作品を読ませたりして、その中から問題点を見つけて書かせる、などといった別の方法があるんじゃないかというふうに考えます。たいへん、時間ばかりとって、拙い実践でございましたが、何かご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

資料 1

意見文を書こう

五 作文

私たちは、ふだんの生活の中でさまざまな事柄に出会い、共感したり反発したり疑問をもったりして生きている。感じたことや疑問に思ったことを文章に書いていくと、考えがまとまっていくことが多い。

いろいろな考えをもった人が集まって社会を構成している。私たちは、その中で互いに理解し合って生きていかなければならない。ときには共通の課題に向かって力を合わせていくことも重要になってくる。意見文は、自分の切実な思いや主張を人々に訴え、同意を得るために書くのである。人々に訴え、ともに考えようとするためには、説得力のあるものでなければならぬ。その要件は、まず論理的に述べて客観性のある文章にすることであ

る。ついで感情的にも同意が得られるように書き進めていくことである。

自分の考えを明確にし、人々と理解し合うために説得力のある文章を書こう。

意見文は、一般的には次のような順序で書き進められる。

1 問題を発見する

自分が抱いてきた理想と目前の現実との間に矛盾を感じるときがある。それに対して自分なりの意見をもとうとし、そのあるべき方向について考えていくのである。将来の生活を考えて、自分はどのような人間になりたいか、これからの自然環境はどうあるべきか、どのような人間関係が望ましいか、問題は少なくない。人間や自然や社会について、日ごろの生活の中で気にかかっていることを幾つか列挙してみよう。その中から自分にとって最も切実な問題をとりあげたい。

2 主題文を書く

自分の主張したいことをはっきりさせるために、問題と主張とを短い文で書く。「流行語について」の筆者は、主題文を次のように書いている。

問題の例

。親と子の関係

。友情は成立する

か

。自然と人間との

調和

流行語は独自の感情を表すことができない。ものに触れて、心の奥底からわきあがってくる実のある言葉をたいせつにすべきである。

3 材料を集める

意見は確実な事実に基づいて構成されなければならない。材料は多いほどよい。自分の経験したことだけでなく文献資料からも材料を集めたい。その中から確かさを吟味して主題を支える材料を選択する。対立意見を予想して、反対の立場からの材料も集め、それに対する反論も用意しておきたい。

4 構想を練る

説得力のある展開にするために、事実と意見の配列について考える。

〔例Ⅰ〕

序論 問題と意見の提示

本論 論点一 論点と意見

根拠となる事実

論点二 論点と意見

根拠となる事実

論点三 ……………

結論 意見の要約

意見文を書く

〔例Ⅱ〕

一 事実の提示

二 問題と意見の提示

三 根拠・理由

四 理由の裏づけ

五 予想される反論とそれへの

反論

六 意見または提案

このほか、第三の型として、事実を列挙し、そこに共通している問題点を指摘して読み手の思考をさそい判断を促す構成もある。

「感激ということ」は、問題を提示して読み手に問いかけることから書き出している。「感激オンチ」という批判を予想して、それをも包みこむことによって自分の意見を豊かにしている。「流行語について」は、まず事実を提示してそこから問題をとり出している。ともに後段で建設的な提案をしている。なるべく早く読み手と共通の場を作り、事実に基づいて意見を展開して説得力のある文章にまとめていくようにしたい。

実際に構想を練るときには、基本型を意識しながら問題に応じて柔軟に対処していきたい。この段階で材料の不足に気づいて調べ直したり、その結果自分の主張がぐらいついたりすることがある。事実に基づいて正されるのであれば、最初の考えにこだわる必要はない。

5 述べ方を工夫する

考えを明確にする厳密さと読み手に人間的な共感を得られる効果とに配慮して説得力のある述べ方を求めている。

(以下略)

資料2

スピーチの題名	意見文の題名	引用した資料
1 石田先生	教師と生徒	(新聞記事)
2 12キロやせた経験	健康について	(厚生白書)
3 体操部4位入賞	よいリーダーとは	(いま学校で高校生)
4 理科部	先輩と後輩	(タテ社会の人間関係)
5 ペットとしての犬	犬の使命	(犬の百科)
6 野営部のつらさ	人間関係のむずかしさ	(人間関係の心理学)
7 原付バイクのおばさん族	二輪車の事故について思う	(交通安全白書)
8 中学校の先生		
9 学校で失敗したこと		
10 ボートの免許取得について	理想的なクラブとは	(学習のしおり)
11 教師のいろいろ	学校生活	(いま学校で高校生)
12 ガラスを割った時の話		
13 最近見た映画の批評	よい映画とは	(映画雑誌)
14 サーフィンについて	趣味とスポーツ	(雑誌)
15 芸備線に乗って	鉄道輸送の諸問題	(観光白書)
16 老犬	警察犬	(全集日本動物誌25)

17	友人とのキャンプ	キャンプでのマナーを守ろう	
18	夏休みにしたこと	休みの使い方	(学習のしおり)
19	テニスクラブ	有意義な高校生活を	(創造的高校生活のすすめ)
20	自転車旅行の経験	喜怒哀楽	
21	中学のころのサッカー部	クラブについて	
22	男の子とまちがえられた話	男の仕事・女の仕事	(なるにはブックス)
23	愛犬レオ		(動物の事典)
24	私の飼っている鳥	人と小鳥	(全集日本動物誌8)
25	田舎の自然を守ろう	水質汚染をなくしよう	(環境白書)
26	バレー部	経験をたいせつに	
27	2回目の手術	友人のたいせつさ	(人間関係の心理学)
28	(欠席)	友だち	
29	バス通学	自家用車の増加	(観光白書)
30	学校へ来る道で	緑を守ろう	(新聞記事)
31	着物・日本の伝統	日本人らしさについて	(身の日本文化)
32	77歳の祖母	お年寄りをだいじにしよう	(日本国勢図会)
33	母の仕事	女性の職業	(女としごと)
34	バスの運転手	免許取得について	(交通安全白書)
35	二匹の猫	バイクの免許	(交通安全白書)
36	友人の手紙	友人について	
37	家族の紹介	家族のあり方	(国民生活白書)
38	私と親	理想的な親と子の関係	(青少年白書)
39	進路を語学で	通訳の責任	(観光白書)
40	ボランティアの体験	奉仕活動の重要性	(青少年赤十字雑誌)
41	8年間続けたバレー	忍耐ということ	
42	登校下校の道	通学路の安全を	(新聞記事)
43	みんながあつての自分	心の動きをよみとろう	(教科書山月記)
44	スピーチのつらさ	ことばと心	(聞き上手・話し上手)
45	取られたセキセイインコ	生きものの宿命	(教科書セキセイインコ)

以上

わたしは中学から高校へと進む間、振り返ってみてもずっと親と暮らしていますが、今でもなお親に反感を持ち続けて、いわゆる反抗期がずっと長びいています。親たちの時代と今、わたしの生きている時代とは違いますし、別にほっといてくれというわけではありません。わたしだってもうあれはいけなとか、これはいいとかの分別はついているつもりなので解放が欲しいと思います。親はいろんなことに厳しく、帰宅時間とか電話とか服装などいろいろ言います。

もちろん注意するのはあたりまえでしょう。しかし疑いの目で見えるあの視線がとてもイヤなのです。いくらなんたってもうはめをはずすような年でもないし、コンサートだって行きたいし、若いいうちにしかできないことがたくさんあります。もちろん全部わかってもらう気はありませんし、親の気持ちがわかっていないのでもありません。

わたしも将来、親となったら今の親の気持ちがわかると言いますが、いろんな面で友だちみたいになりたいと思います。若いのだからいろんなことで悩むだろうし、わたしだってまだ乗り越えなければならぬことだってあるはずです。異性の問題も当然あります。でもいずればこんなことに、うちかっていかなばなりません。こんな子どもの気持ちを親は本当にわかってくれているのでしょうか。

理想的な親子とはどんな関係を言うのでしょうか。経済的に恵まれた家庭を言うのではなく、子どもと親が、友だちのように何でも話し合える関係だと思っています。お金や土地がなくても、子どもと親がじっくりいつていたらいいし、今、よく問題にされる非行もなくなるのではないのでしょうか。

「青少年白書」によると家庭内暴力の原因として、「しつけ等親の態度に反発して」「非行に走った子どもが四九・九％と最も多く、次に「物品の購入要求が受け入れられないで」「非行へ走る者が一七％と以上二項目で原因の三分の二を占め、あと順に「非行をとがめられて」「勉強をうるさく言われて」となっています。両親の養育態度を見ると、母親の場合、過保護が二二％で最も大きく、過干渉も二一・九％と並んでいます。次が放任の一九％で過保護過干渉放任で六〇％を越えます。父親の場合では放任が三八・四％で最も多く、普通一九％、厳格九・三％、過保護九・〇％、過干渉六・七％となっています。つまり少年非行の原因は、母親の「過保護と過干渉」と父親の「放任」にあると言えます。これを逆に言えば、母親は子どもに自立心を与え保護しすぎず、干渉せずに見守り父親も子どもを放任せず、注意すべきところは注意するというのがよいでしょう。

この上に立って子どもと親が何でも話し合えるようになれば、理想的な関係と言えると思います。

芸備線に乗って

H・H

ワンダーフォーゲル部で蒜山に行ったことがあるので、その時に利用した芸備線について話してみよう。芸備線は広島県北の過疎の町を走る赤字路線です。それは駅も駅員のいない無人駅が多くて、乗客もあまり乗っていないような現状です。また僕が行くとき乗った列車は広島を午前六時発車でガランガランの車内でしたが、三次に着く頃は午前八時過ぎで、通勤・通学などの客で、割と一杯になっていました。また三次を過ぎますと、元のガランガランの状態になっていました。このことでもいえるのですが、車両編成もなかなか難しいようです。

しかしこういう山の中を走る路線は、僕たちが日頃接することのできない自然の中へ運んでくれて、風景もすばらしい場所がたくさんあり、たいへん良かったような気がします。

今回クラブで蒜山という遠いところへ行ったわけですけど、国鉄があつてはじめて行けるのでして、歩いてなど、とても行けません。ほんとうにありがたいことです。赤字にもめげず国鉄は、田舎の自然の中を走りつづけて欲しいと思います。

鉄道輸送の諸問題について

H・H

旅客輸送の手段としては、鉄道や道路交通、船、航空機など、いろいろありますが、ここで鉄道について考えてみたいと思います。

鉄道は、大きくわけて日本国有鉄道という、いわゆる国鉄と、民営鉄道の二つに分けることができます。その二つの現況などを比較してみますと、営業キロ数は国鉄が二三、三四九キロメートル（新幹線を含む）で民営が五、六四五キロメートルという具合になっています。しかし輸送人員の方は、五十三年度から五十七年度までの五年における鉄道旅客輸送実績で考えてみますと国鉄は定期の客と定期外の客が年々のきなり減り続けているのに対して民営は定期の客、定期外の客ともに順調な伸びをみせています。国鉄、民営両方合わせた輸送人員は、多少増えています。五十七年度の前年比は、〇・一％増の一八二億六、九〇〇万人でありました。

次に輸送人キロですが、やはりこれはさすがに国鉄が営業キロ数が多いので民営に比べて勝っているようです。しかし、輸送人キロの方も国鉄は毎年落ち込んでいます。定期の客は横ばい状態にあるのですが、定期外の客は毎年一〇億人前後減り続けています。反対に民営は定期の客、定期外の客ともに増え続けています。国鉄、民営を合わせた数となりますと、毎年わずかではありますが増えています。

ここで民営の伸びている理由ですが、民営はほとんど都市近郊です。現在はますますドーナツ化現象が進んでいる時代です。都市郊外はどんどん人口が増えていきます。したがって多少今までよりも都市に行くのに時間がかかります。言い換えると、遠くまで歩けない距離なので鉄道を利用して輸送人員が増え、都市中心まで遠くないので鉄道利用の距離が長く輸送キロ数も増えたものだと思います。国鉄は田舎の方にたくさん路線をかかえているので大変だと思

ますが、ダイヤ（臨時列車、季節列車）や車両編成などを有効に活用して、客を引きつけてもらいたいと思います。

（広島県立安西高等学校教諭）